

# がん教育研究センター

## 1 構成員

	平成20年3月31日現在
教授	1人
准教授	0人
講師（うち病院籍）	0人（0人）
助教（うち病院籍）	0人（人）
助手（うち病院籍）	0人（0人）
特任教員（特任教授，特任准教授，特任助教を含む）	3人
医員	0人
研修医	0人
特任研究員	0人
大学院学生（うち他講座から）	0人（0人）
研究生	0人
外国人客員研究員	0人
技術職員（教務職員を含む）	0人
その他（技術補佐員等）	1人
合 計	5人

## 2 教員の異動状況

- 大西 一功（教授）（H5. 7. 1～本学）（H19. 10. 1～現職，腫瘍センター長，化学療法部長併任）  
 深澤 貴子（特任助教）（H19. 10. 1～現職）  
 小野 孝明（特任助教）（H19. 10. 1～現職）  
 堀 雄史（特任助教）（H18. 10. 1～H19. 9. 30薬剤部主任）（H19. 10. 1～現職）

## 3 研究業績

数字は小数2位まで。

	平成19年度
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	5編（2編）
そのインパクトファクターの合計	0
(2) 論文形式のプロシーディングズ数	0編
(3) 総説数（うち邦文のもの）	9編（9編）
そのインパクトファクターの合計	9.136
(4) 著書数（うち邦文のもの）	1編（1編）
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	1編（1編）
そのインパクトファクターの合計	0

(1) 原著論文（当該教室所属の者に下線）

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Ohnishi K. PML-RARalpha inhibitors (ATRA, tamibaroten, arsenic trioxide) for acute promyelocytic leukemia. *Int J Clin Oncol.*313-317. 2007
2. 堀雄史, 窪田佳代子, 三村泰彦, 足立伊佐雄, 川上純一:肺癌患者における塩酸アムルピシン化学療法による副作用の解析:化学療法ワークシート作成の試み. *医療薬学*, 34, 95-102, 2008  
インパクトファクターの小計 [0.00]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの(学内の共同研究)

1. 宮本康敬, 鈴木吉成, 堀雄史, 天野祐里, 山本知広, 後藤実穂, 渡邊進士, 田中達郎, 大西一功, 川上純一:外来がん化学療法支援システムの構築と薬剤師の役割-外来注射オーダー未導入時のレジメン管理-. *日本病院薬剤師会雑誌*, 43, 1222-1226, 2007  
インパクトファクターの小計 [0.00]

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. Yoshida H, Ichikawa H, Tagata Y, Katsumoto T, Ohnishi K, Akao Y, Naoe T, Pandolfi PP, Kitabayashi I. PML-retinoic acid receptor alpha inhibits PML IV enhancement of PU.1-induced C/EBPepsilon expression in myeloid differentiation. *Mol Cell Biol.* 27:5819-5834. 2007
2. Fujisawa S, Ohno R, Shigeno K, Sahara N, Nakamura S, Naito K, Kobayashi M, Shinjo K, Takeshita A, Suzuki Y, Hashimoto H, Kinoshita K, Shimoya M, Kaise T, Ohnishi K. Pharmacokinetics of arsenic species in Japanese patients with relapsed or refractory acute promyelocytic leukemia treated with arsenic trioxide. *Cancer Chemother Pharmacol.* 59:485-493. 2007

インパクトファクターの小計 [9.136]

### (3) 総 説

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 大西一功. Imatinib抵抗性Ph陽性白血病に対するdasatinibとnilotinibの有用性. *血液・腫瘍科*. 54:81-86. 2007
2. 大西一功. 慢性骨髄性白血病-治療を中心に-. *FRONT Wave in Hematology.* 20:14. 2007
3. 大西一功. 分子標的治療薬の現状と将来展望. *臨床薬理.* 38:387-391. 2007
4. 大西一功. 妊娠と血液疾患-どう対処するか? 慢性骨髄性白血病. *血液・腫瘍科.* 55:415-418. 2007
5. 大西一功. 造血器腫瘍-基礎・臨床領域における最新の研究動向- 慢性骨髄性白血病. *日本臨床.* 65:499-504. 2007
6. 大西一功. 亜砒酸-確立された臨床効果と今後の展望. *医学の歩み.* 220:687-692. 2007
7. 大西一功. 慢性骨髄性白血病の治療の進歩. *癌と化学療法.* 34:2185-2190. 2007
8. 小野孝明, 大西一功 2007年 8 月 血液腫瘍科 第55巻 特別増刊号 造血幹細胞移植のす

べて「慢性骨髄性白血病に対する造血幹細胞移植」

インパクトファクターの小計 [0.00]

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. 山川花朱美, 堀雄史, 川上純一:定期的な臨床検査が必要な医薬品の薬剤管理指導のポイント. 月刊薬事, 50, 87-94, 2008

インパクトファクターの小計 [0.00]

#### (4) 著 書

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 小野孝明, 大西一功 2007年9月 専門医のための薬物療法Q&A 血液 中外医学社「フィラデルフィア染色体陽性急性リンパ性白血病

#### (5) 症例報告

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

1. Fujisawa T, Suda T, Matsuura S, Enomoto N, Takeshita K, Ohnishi K, Chida K. Peripheral T-cell lymphoma with diffuse pulmonary infiltration and an increase in serum KL-6 level. *Respirology*. 12:452-454. 2007

インパクトファクターの小計 [0.93]

### 4 特許等の出願状況

	平成19年度
特許取得数（出願中含む）	0件

### 5 医学研究費取得状況

	平成19年度
(1) 文部科学省科学研究費	0件 ( 0万円)
(2) 厚生科学研究費	3件 (3,501.9万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0件 ( 0万円)
(4) 財団助成金	0件 ( 0万円)
(5) 受託研究または共同研究	0件 ( 0万円)
(6) 奨学寄附金その他（民間より）	0件 ( 890万円)

(2) 厚生科学研究費

がん臨床研究事業 難治性白血病に対する標準的治療法の確立に関する研究 19. 4-20. 3 代表者 2,538.1万円（継続）

医療技術実用化総合研究事業：臨床研究基盤整備推進研究 難治性白血病に対する標準的治療法の確立に関する研究 19. 4-20. 3 代表者 813.8万円（継続）

厚生労働省がん研究助成金 成人難治性白血病の分子生物学的特徴に基づく治療法に関する研究班「白血病細胞増殖を制御する低分子化合物合成とその基礎的研究」  
19. 4-20. 3 分担者 150万円（新規）代表者 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 朝長万左男

## 7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0件	0件
(2) シンポジウム発表数	0件	0件
(3) 学会座長回数	0件	1件
(4) 学会開催回数	0件	0件
(5) 学会役員等回数	0件	4件
(6) 一般演題発表数	0件	

### (1) 国際学会等開催・参加

#### 5) 一般発表

##### ポスター発表

Kazunori Ohnishi, Miki Nishimura, Jin Takeuchi, Shin Fujisawa, Tadashi Nagai, Koichi Miyamura, Yukihiro Kimura, Fumiharu Yagasaki, Hideki Akiyama, Noriko Usui, Ohtake S. Lower Dose of Imatinib Provides Outcomes Similar to the Standard Dose Imatinib in Japanese Patients with Early Chronic-Phase CML: The Interim Analyses of JALSG CML202 Study. . 49th annual meeting of American Society of Hematology. Atlanta; 2007. 12. 8.

### (2) 国内学会の開催・参加

#### 4) 座長をした学会名

大西一功. 日本血液学会教育講演. 第69回日本血液学会・第49回日本臨床血液学会合同総会. 横浜; 2007. 10. 12.

### (3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

日本血液学会 代議員

日本臨床血液学会 評議員

日本リンパ網内系学会 評議員

日本臨床腫瘍学会 評議員

## 8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数（レフリー数は除く）	0件	0件

### (3) 国内外の英文雑誌のレフリー

Int J Haematol (JPN) 4回

## 9 共同研究の実施状況

	平成19年度
(1) 国際共同研究	0件
(2) 国内共同研究	0件
(3) 学内共同研究	0件

## 10 産学共同研究

	平成19年度
産学共同研究	4件

治験 ノバルティス AMN107

ブリストル BMS-354825

ワイス SKI-606

シンバイオ SyML-0501